

# 第64回 気仙沼みなとまつり

## とどけ!! 海へ 大地へ 大空へ



「街頭パレード」出発式でのテープカット



5年ぶりの市役所前付近「街頭パレード」



「海上打ち上げ花火」と「海上うんづら」



港町ならではの「打ちばやし大競演」

「第64回気仙沼みなとまつり」は、8月1日(土)、2日(日)の両日、盛大に開催されました。初日は、田中前大通りを舞台にオープニングセレモニーとはまらいんや踊りが、大勢の市民、団体の参加のもと繰り広げられました。

2日目は、昼の部として街頭パレードが実施されました。震災後初めてパレードコースが三日町、八日町、南町を通るコースに移され、市役所前や南町紫市場前では停止演技が行われました。

午後5時から、夕の部として打ちばやし大競演、海上うんづら、大流灯、海上打ち上げ花火が実施されました。かさ上げ工事が終了した港町臨港道路をメイン会場に行われ、岸壁に係留されたサンマ船が集魚灯の披露で、まつりに彩りを添えていただきました。

多くの皆様からご支援とご協力をいただき、本年も気仙沼市民の元気を発信できた“みなとまつり”となりました。



# 第64回 気仙沼みなとまつり盛大に開催

第六十四回気仙沼みなとまつりは、八月一日(土)と二日(日)の両日にわたり、七万二千人(一日目三万一千人・二日目四万一千人)の観客を集めて盛大に開催されました。

初日は、午後四時三十分から田中前大通りとその周辺を会場に「オーブニングセレモニー」と「はまらいいんや踊り」が行われました。午後四時の段階でも当地の気温は33・6℃と例年以上の熱気が覆う中で、「オーブニングセレモニー」は(一社)気仙沼青年会議所による銀鱈太鼓から始まり、昨年開幕を告げる銀鱈太鼓の演奏では、昨年制作された「昇里」と一昨年に制作された「怒濤」が披露されました。セレモニーでは主催者を代表して菅原茂みなどまつり委員会会長(気仙沼市長)からの挨拶があり、その後、ご来場いただいた来賓の皆様のご紹介が行われました。「オーブニングセレモニー」と「はまらいいんや踊り」の間には、震災以降、復興応援のために気仙沼を訪れていた、いろいろなワハハ本舗の「ボカスカジャン」の皆さんによるミニステージが行われ、会場を愉快な音楽演奏による笑い声で盛り上げてくれました。

夕方五時三十分からは市内外から五十七団体が参加した「はまらいいんや踊り」が行われました。例年と同じく当市出身バイソン片山氏率いるバイソンバンドが「はまらいいんや」の音楽を担当してくださり、同じく当市出身の岡本優子さんもキーボードの演奏で加わっていただきました。このほかステージ上では市内の小学生十四名による掛け声隊が明るく元気な歌



菅原昭彦会長あいさつ



JC銀鱈太鼓



菅原茂市長あいさつ



バイソンバンドと岡本優子さん(左端)



はまらいいんや掛け声隊の子ども達



気仙沼高校29代目ダンス部



そろいの衣装で雄々しく



そろいの衣装で華やかに



元気な笑顔の子ども達

声で応援し、会場内の交差点や両端では市内の和太鼓団体が太鼓の勇壮な響きでまつりのボルテージを盛り上げてくれました。「はまらいいんや踊り」には、昨年より一〇〇人多い三二〇〇人が参加し、各団体とも創意工夫してしつらえたそろいの衣装に身を包み、日夜練習を繰り返してきたはまらいいんや踊りを楽しみながら、観衆の市民の皆さんを魅了していました。

二日目は、昼の部として「街頭パレード」が行われました。みなとまつりを震災以前の内容に近づけられるよう、「街頭パレード」については、本年から日程を二日目の昼に移し、パレードコースも八日町の気仙沼郵便局前交差点から南町のミヤコーバス案内所バス停留所付近までの約六〇〇mの区間で実施することとなりました。「街頭パレード」に先立ってスタート地点となる気仙沼郵便局前交差点では出発式が行われました。出発式では、ご出席いただいた方々のご紹介のあと、気仙沼みなとまつり委員会長の菅原昭彦実行委員長(当所会頭)からの挨拶があり、その後、気仙沼市観光キャラクターホヤぼーやも参加して、パレード開始のテープカットが行われました。

今年の「街頭パレード」には、市内外から十四団体(約八〇〇人)が参加しました。山車の巡行や手踊り、ブラバンドマーチ、仮装行列、ダンス等、多岐に渡る内容で、六〇〇mの区間を練り歩き、途中の市役所前交差点付近と仮設商店街の南町紫市場付近では停止演技も行われました。特に南町紫市場では独自のまつり協賛行事もお



こなっていたことから、多くの市民の方が詰め掛け、参加団体を通る度におまつりらしい大きな賑わいが見受けられました。海に近いコースだったことで、時折、涼しい風が吹き抜け、正午の気温は28.2℃と暑さは前日よりややわらいでいましたが、見物に訪れた市民の皆さんが真夏の日差しを避けて、沿道の建物の日陰からパレードを見守ってくださっていた姿がとても印象的でした。

午後五時十分からは夕の部として、港町臨港道路を会場に「打ちばやし大競演」と(一社)気仙沼青年会議所による「海上うんづら」が勇壮に行われました。会場となった港町臨港道路は四車線すべてのかさ上げ工事が終了したことで一昨年よりも奥行きが広がり、約二八〇mの直線区間には二十七団体約七〇〇基の太鼓が集まりました。開始直前に突然の雷雨で開会式が遅れるアクシデントもありましたが、「しょっきり太鼓」の披露や「海潮音」の合唱など当初予定していた内容でオープニングイベントが進められたほか、参加団体の休憩時間中にも様々なイベントを盛り込みながら多くの来場者を楽しませていました。(株)みちのく建設工業付近の岸壁では(一社)気仙沼青年会議所による「海上うんづら」が停船演技を実施したほか、日が暮れてからは、中央のステーション付近岸壁でサンマ漁船「第八十一豊清丸」が集魚灯によるライトアップを行い、港町気仙沼ならではのみなとまつりを演出していただきました。

夜七時十分からは内湾海上を舞台に立正佼成会石巻教会気仙沼支部様に



日差しに負けず華麗な舞いで



市街地に響きわたる気仙沼音頭



各地から駆けつけて祭りを元気に



海上打ち上げ花火



笛と小太鼓でまつりを盛り上げ



打ちばやし大競演での虎舞



JCによる「海上うんづら」



「第八十一豊清丸」による集魚灯披露

よる「大流灯」が実施されました。見る人の鎮魂の想いを受け止めながら八〇〇個の灯籠が内湾の水面を優しく静かな光で照らしながらゆらゆらしていました。

二日目のクライマックスは、夜八時からの「海上打ち上げ花火」でした。豪華絢爛な大玉花火やスターマインなど約二、四〇〇発の花火が夜空に咲き、港を照らすなか、陸では七〇〇基の和太鼓が響き、港町海上ではうんづら船が勇壮に運航しながら、観客の皆さんを楽しませていました。

東日本大震災を経て、復活開催四回目となる今回も会場や内容の面で復興状況に応じた変化を遂げてきております。そのような中、ご参加、ご観覧いただきました皆様のおかげで、今回も事故等もなく、予定の行事を全て実施できました。まつり会場周辺については、陸上行事・海上行事ともに地域にお住まいの皆様や関係事業者および従業員の皆様のご協力によって、清掃・美化が図られていたことから、安心・安全な行事運営ができました。

多くの皆様からのご支援とご協力により、「未来の気仙沼を創り上げて行く」とする市民ひとりひとりの復興への気持ちを盛り上げ、震災後の支援に対する感謝と気仙沼市民の元気な姿を発信して行く」という当初のみなとまつりの目的は達成できたものと思われ

ます。

皆様方からの多大なるご支援とご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

